

～高等特別支援学校と地域プラザで始める地域の繋がり～

神奈川県横浜市

洋光台地域ケアプラザ 主任

地域交流コーディネーター 松田 健也

1 はじめに

平成22年度に地域交流事業で若者を対象とした居場所づくりの事業を計画していたものの、単に集まる場の提供ではなくしっかりとプロセスに基づいた取り組みをしていきたいという部分で行き詰まり、事業として進めることができない状況にいました。そんな中、磯子区にある発達障害児者支援ネットワーク連絡会で発表した、中学の個別支援級の居場所づくりの事例に関心を持ってくれ、高等特別支援学校の地域支援コーディネーターからアプローチをいただいたのが、この事例のきっかけです。

2 事例や取組の紹介

社会にこれから出ていく生徒、社会に出て躓いてしまった卒業生をどう支えるか次のような悩みを抱えていらっしゃいました。

- ① 地域とつながることでコミュニケーションをとる機会が欲しい
- ② 流通の流れを学ぶことが必要 地域の中で学ばせたい
- ③ 作業のバリエーションを拡充したい
- ④ 卒業生の社会に出てからの居場所が欲しい

(特に社会に出てから躓いて、ひきこもりになってしまった卒業生)

C0として、福祉教育の枠を超えたつながりが学校と持ちたいという考えと共に「居場所作り」が二者の共通項であることを確認し、協働の可能性を見出すことが出来ました。その後平成23年には、まず学校とケアプラザとの関係づくりから始め、学校の各先生との紹介を頂き、打ち合わせを重ねてきました。平成24年には協働のイメージを校長も交え確認を深め、具体的な作業実施を展開しています。

ケアプラザ側でもこの事業の取組みについて職場内や法人内での理解・協力を得て、ディサービス実習や清掃作業の実施、更に地域のサロン活動団体にもアプローチをかけ連携を広げています。

(学校からの相談)

磯子区発達障害児者地域支援ネットワーク連絡会の中で洋光台ケアプラザが中学校の個別支援級の生徒を対象にした「放課後支援事業」の事例発表をしたことがあり、その事例を聞いたコーディネーター教諭が関心を持ってくださり、一度情報交換も含めて、相談させてほしいという内容のお話をいただきました。場を設けて、お互いの情報交換としつつ、学校で今後、地域でつながりながら進めていきたいことや、社会に出た卒業生の今後についての課題の話をしました。洋

光台ケアプラザで進めていきたい若者の居場所づくり関連の事業と学校との思いとの両者のニーズがマッチしたため、学校と協力しながら進めていけるイメージがふくらみました。

(協働体制打ち合わせ) ～地域ケアプラザの考えるイメージ～

学校の教諭や生徒がケアプラザと関わる機会を持ち、活動を通じて交流していき、つながりを自然な形で作っていくという、時間はかかりますが地道な取り組みが大切であると考えました。

ケアプラザが学校と協働していきたいイメージ像を校長に伝えたところ、地域とのつながりや社会貢献の場を学校としても求めているとお話があり、24年度から協働の取り組みを進めていくという方向で話が進みました。その具体的な取り組みとして、実習生の受け入れ、出前サロンでの活動の補助(喫茶)、ケアプラザの掃除、イベント等での野菜や各作業の品物販売、ケアプラザ内に常設販売コーナー設置、食事会の材料(野菜)提供、朝市、印刷物の受注等としました。当年度で全部の取り組みを一度に進めていくのではなくて、数年かけて協働のしっかりした体制・仕組みづくりをしていくというイメージとしました。

(学校の考える活動のねらい)

- ・対人スキル向上、高齢者以外にも様々な人との会話、やりとり
- ・高齢者施設に出向くことで介護施設等での職種選択の一助となる
- ・販売の機会が増えることで金銭授受の学習、接客マナーの向上
- ・もの作りから販売まで、流通の初歩的な体験
- ・出張清掃活動場所の増加にともない、場に応じたスキルの向上
- ・将来的な卒業生の居場所づくりにつなげていく

(各セクションの教諭との関わり)

学校と言っても職業科には様々な作業班の担当教諭がいるので、ケアプラザがそれぞれの科とのつながりが出来るように地域支援コーディネーター(教諭)がつなげてくれました。打ち合わせについても担当教諭と進める機会が増えました。

洋光台ケアプラザの広報紙の印刷作業を継続的に学校に依頼することになりました。企業就労を通じて自立し社会貢献できるような職業教育を中核とした人材育成に取り組んでいる学校の生徒にはデイサービスでの現場実習を学んでもらう機会を作りました。

11月に開催する地域の大型サロンで使用するジャガイモは、秋の収穫のタイミングで活用予定です。

ネギを料理教室や配食サービスで使用しました。お試しでケアプラザのプランターに花の苗を植栽してもらい、ケアプラザの入口付近に設置し、利用者からは好評をいただいています。苔玉をプラザの貸室やロビーに展示しました。

今年度は6名の実習生を受け入れる予定です。生徒には実習オリエンテーションを実施しました。

午前中の清掃に来てくれた生徒や教諭をゲストとしてお招きして、食事の提供をさせていただきました。食事づくりは、プラザの自主事業で男の厨房「わっしょい」(高齢者の男性を対象にした料理教室)のメンバーが担当しました。手品が得意な「わっしょい」のメンバーが生徒達に披

露してくれて和やかな雰囲気での交流ができました。学校の中で完結している活動が多いので、生徒にとっても人的交流の部分ではプラスになりました。

卒業生徒の居場所づくりに向けた日野中央高等特別支援学校 ・洋光台地域ケアプラザの協働プロジェクトの進行状況																	
平成23年		平成24年															
7月12日	9月8日	11月20日	2月9日	4月19日	5月17日	6月7日	6月29日	7月9日	7月17日	7月20日	9月20日	9月20日	10月6日	10月16日	10月29日	11月25日	
小島教諭と初打ち合わせ	生徒の居場所づくりと印刷作業依頼打ち合わせ	ブラザ広報誌印刷依頼	体制づく年度協働打ち合わせ	実習・清掃の件 倉本・新島・小島教諭	作業班によるブラザ清掃	作業班によるブラザ清掃	園芸の件 小島・柵山教諭	実習本才教諭・実習生2名 エンターション	(各2日間) 実習生2名 実習	ブラザ広報誌印刷依頼	作業班によるブラザ清掃	生徒と教諭7名招待	男性高齢者の料理教室のゲスト	地域大型サロン用食材 発注	(実習生オリエンテーション) 保護者同席)	(各3日間) 実習生2名 実習	用地し、サロンでジャガイモを生活

3 考察

学校以外の環境で活動を通じて生徒達が人的交流を持つことで慣れていない環境の下で社会性に繋がっていく機会となりました。

学校とケアプラザとボランティアグループ、自主事業のグループとがお互いを知る機会を持つことができました。

学校という組織の中のそれぞれの科の担任の教諭と交渉や相談等する関係が日常となってきました。

福祉教育以外の部分で学校とつながる機会ができたのは、大きな収穫といえます。つながることで学校とケアプラザのお互いのできることの幅が広がりました。

(課題)

今後、進めていく中で卒業生徒が集うことができる場としてケアプラザを活用する場合、実際に生徒達がどのようなニーズをもっているのか意見を取り入れていくことです。

学校の担当者が変わっても太いパイプでつながっていくためには、この取り組みについて学校としての位置づけを明確にする必要があります。欲を言えば、教育課程上にのせていく所までの関係づくりをしていくことができないか模索しています。

4 おわりに

今後、進めていく中で卒業生徒が集うことができる場としてケアプラザを活用する場合、実際に生徒達がどのようなニーズをもっているのか意見を取り入れていくことです。学校の担当者が変わっても太いパイプでつながっていくためには、この取り組みについて学校としての位置づけを明確にする必要があります。欲を言えば、教育課程上にのせていく所までの関係づくりをしていくことができないか模索しています。

